

F-6 デルファイ法による未来生活の予測 (オ2報) その1

山本松代(生活指標研究所)・前川当子(大妻女大) 海津美代子(実践女大)
八倉巻和子(大妻女大) 他4名

目的: 本調査研究は生活指標の基礎資料を得るため、デルファイ法により未来生活の予測を行った。その内容は生活全般を対象とするものである。家政学分野、関連する分野の新技術の実現、開発中の問題を含め価値観、時間要因などについて意見を求めた。

方法: 調査の対象は家政学会の会員と一部専門家を選んだ。オ1回調査は昨年6月に調査票を郵送し7月20日までに回答を返送された256名の予測結果を集計した。調査項目は①生活に関するもの ②家庭単位のもの ③社会単位のものとして区分し、総項目は88項目に対し、重要度と実現可能性とその時期について回答を求めた。オ2回目調査は前回の参加者について、前回の回答の結果を集計した報告書を同封し50年4月2日~4月24日の間に回答を依頼した。調査項目は前回調査の回答の中で、意見が収められたもの、重要度の低いものは省き、新たに数項目を設けて45項目を設定した。

結果: 回答の集計結果を全部報告する時間がないので、参加者の意見が長く収められたもの、非常に重要と思われるもののうち、食物関係、経済、経営関係について報告する。A-8無公害な合成食品の開発が盛んになるのは、A-11廃棄物、系列的再生産が無公害でできるようになるのは、A-14人類が人口と食糧の問題を解決して飢餓のおそれから解放されるのは、B-4軽食が好まれ食事回数が増えるのは、B-5自動販売機による調理済食品が一般に家庭で利用するのは、B-9家族全員が家事労力を分担することから各家庭に一般化するのは、B-14カードシステムが一般化するのは、C-4寝たきり老人や身障者などに集団給食サービスが徹底するのは——等。